

PRESS RELEASE (2020/04/06)

**令和2年度実施事業「大学発ベンチャー事業シーズ育成支援プログラム」  
(通称：第4期九大ギャップファンド)の実施と採択案件について**

今年度を実施する「大学発ベンチャー事業シーズ育成支援プログラム」の事業シーズ7件を新規に採択しました(別紙参照)。昨年度と同様に九州大学の教職員に公募を募り、厳正なる審査の上採択された事業シーズです。今後、令和2年4月から同年10月末までのプログラム期間を通して、起業に向けた事業化検証を進めて参ります。

本プログラムは、本学の研究成果に基づく大学発ベンチャーの創出促進を目的とした事業です。本学の教職員を対象とし、ベンチャーの起業を前提として提案された自己の研究成果に対して、事業化検証資金(200万円/件)を助成します。プログラム期間中は、九州大学/学術研究・産学官連携本部(AiRiMaQ)を窓口として、外部機関の支援を仰ぎながら事業化検証を進めていきます。プログラム期間終了後は、外部有識者から検証結果に対して評価・アドバイス等のフィードバックを得て、事業化を進めていく際の優位性や課題を明らかにします。なお、本プログラムを通じ有望な事業シーズであると認められた場合は、別途、起業へ向けた組織的な支援を実施していきます。

昨年度実施した第3期九大ギャップファンドでは、採択事業シーズ10件の中から早くも1社(通算7社目)が起業し、その他の事業シーズも引き続き起業を視野に入れ事業化検証を進めています。九州大学は、平成28年度より学術研究・産学官連携本部内に組織化した大学発ベンチャー担当チームが主体となり、大学の研究成果を社会実用化していくための1つの手段として起業支援を展開しています。大学発ベンチャー担当チームは、発足後、民間事業会社やベンチャーキャピタル等の外部機関と連携し、起業前から起業後まで組織的に支援を行う体制を構築してきました。中でも、事業シーズの発掘から事業化検証までを行う九大ギャップファンドをコア事業として推進し、九大発ベンチャーの創出支援を実施して参ります。

## &lt;プログラムの概要&gt;



## 【お問い合わせ】

学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ  
TEL: 092-802-5143 FAX: 092-802-5145  
Mail: [startup@airimag.kyushu-u.ac.jp](mailto:startup@airimag.kyushu-u.ac.jp)

## ＜第4期 採択事業シーズ一覧＞

No.	所属	事業シーズの名称
	氏名(職名)	概略
1	工学研究院 機械工学部門	携帯型カセットボンベ燃料電池用プレート型改質器
	白鳥 祐介(准教授)	携帯型燃料電池システム用の触媒カートリッジを開発！ 紙形状触媒技術を適用してカセットボンベ燃料から水素を製造する触媒カートリッジを開発し、携帯型燃料電池の実現に貢献する。
2	農学研究院 環境農学部門	海洋微生物の餌でつくる“真球微粒子”の化粧品展開
	北岡 卓也(教授)	海で生分解できるマイクロプラスチック真球微粒子を開発！ 難分解性マイクロプラスチックの海洋汚染問題の解決に向け、海洋微生物の餌である木質から、オールセルロース真球微粒子を開発する。
3	農学研究院 資源生物学部門	細胞培養に向けた新規代替血清の開発
	藤田 龍介(准教授)	FBS や化学合成試薬を用いない代替血清を開発！ 既存血清（FBS 等）では難培養の細胞に向け、低価格、ロット間差なし、病原体混入リスクなしの血清を開発する。
4	総合理工学研究院 エネルギー科学部門	小型人工衛星において精密制御可能なワイドスロットリングレゾナンスエンジンの開発
	山本 直嗣(教授)	小型衛星に搭載する広範囲な推力可変可能なイオンエンジンを開発！ 従来では、不可能であった推力可変範囲を達成するイオンエンジンの開発により宇宙ビッグデータビジネスをサポートする。
5	工学研究院 化学工学部門	電池の性能評価シミュレーションソフトの開発
	井上 元(准教授)	短時間かつ現実的なスケールでの電池の性能評価を可能とする！ 独自のシミュレーション技術を用いて、電極構造の高度設計を実現し、勘と経験の構造設計から脱却することを目指す。
6	生体防御医学研究所 構造生物学分野	生体高分子の立体構造解析のための革新的試料調製法の産業利用
	嶋田 睦(准教授)	構造解析困難な膜タンパク質の簡便な解析方法を開発！ 従来では、労力や困難さの面により構造解析が躊躇されていた膜タンパク質を簡便に解析し、創薬の効率化を促進することを目指す。
7	プラズマナノ界面センター	プラズマを用いた高窒素有機肥料のその場生産法の開発
	Attri Pankaj(特任准教授)	環境に優しい農業向けプラズマ窒素固定技術を開発する！ 窒素と水と電気のみを使った高窒素濃度有機肥料を製造・販売することで、農産物を取巻く環境問題の解決に貢献する。

以上